

社会政策学会 Newsletter

- ◇ 学会本部 お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 平岡公一研究室
URL:<http://www.sssp-online.org/> TEL: 03-5978-5246 E-mail: hiraoka.koichi@ocha.ac.jp
- ◇ 編集・発行 平岡公一(代表幹事) 首藤若菜(Newsletter 担当幹事) 森周子(事務局長)
- ◇ 事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株)ワールドプランニング
Tel: 03-5206-7431 Fax: 03-5206-7757 E-mail: world@med.email.ne.jp

《目次》

1. 第 130 回(2015 年度春季)大会の報告募集
2. 学会賞候補作の推薦(自薦・他薦)のお願い
3. 第 128 回(2014 年度春季)大会の報告
4. 第 128 回(2014 年度春季)大会の会計報告
5. 「経済学分野の参照基準」について
6. 第 129 回(2014 年度秋季)大会での報告の取り止めについて
7. 2014-2016 年期幹事会報告
8. 承認された新入会員

1. 第 130 回(2015 年度春季)大会の報告募集

社会政策学会第 130 回大会は、2015 年 6 月 27 日(土)と 6 月 28 日(日)にお茶の水女子大学と専修大学神田キャンパスで開催されます。

春季大会企画委員会では、同大会で開かれる自由論題およびテーマ別分科会での報告を募集いたします。報告をご希望の方は、下記の要領でご応募ください。

また、報告にあたって事前に、**フルペーパーの電子ファイル**をご提出いただくことになっております。詳細に関しては、採択決定後に、分科会責任者や報告者の方々にご報告申し上げます。

なお、自由論題およびテーマ別分科会は 6 月 27 日(土)(お茶の水女子大)、共通論題は 6 月 28 日(日)(専修大学)となります。

(1) 自由論題で報告を希望される会員は、学会のホームページからダウンロードした応募用紙に、報告タイトル(日本語、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)、氏名(ふりがな、英語)、連絡先(住所、電話、Fax、E-mail アドレス)、400 字程度の邦文報告要旨、**英文アブストラクト**、専門分野別コード(1.労使関係・労働経済、2.社会保障・社会福祉、3.労働史・労働運動史、4.ジェンダー・女性、5 生活・家族、6.その他)等の必要事項を記入のうえ、添付ファイルとして下記の E-mail アドレスにご応募ください。

なお、今回から英語による自由論題報告を受け付けます。海外の研究者などによる報告と同一の分科会に配置することで、報告・質疑応答・討論をすべて英語で行う分科会を編成する予定です。学会の分科会レベルで国際交流を行うことが目的です。英語での口頭発表を希望される方は、使用言語の欄に「英語」とご記入下さい。

自由論題報告応募・問い合わせ先
hokoku2015jasps@yahoo.co.jp
担当委員 松尾孝一(青山学院大学)

また、論文・報告書・他の学会報告等のかたちで既発表の内容については報告できません。応募の段階で判明した場合は不採択といたしますのでご注意ください。自由論題に応募資格があるのは、会員で、当該年度まで会費を納入されている方です。

当日は、報告 25 分、質疑 10 分となります。

(2) テーマ別分科会の企画を希望する会員は、学会のホームページからダウンロードした応募用紙に、分科会タイトル(日本語、英語)、分科会設定の趣旨(日本語 400 字程度、非会員を報告者に招聘するときは、招聘しなければならない理由を記入)と**英文アブストラクト**、座長・コーディネーターの氏名(ふりがな、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)、連絡先(住所、電話、Fax、E-mail アドレス)、報告者の氏名(ふりがな、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)、E-mail アドレス、各報告の邦文報告要旨(400 字程度)と**英文アブストラクト**、予定討論者の氏名(ふりがな、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)等必要事項を記載のうえ、添付ファイルとして下記の E-mail アドレスにご応募ください。なお、テーマ別分科会の企画に応募資格があるのは、会員のみです。

テーマ別分科会報告応募・問い合わせ先
bunkakai2015jasps@yahoo.co.jp
担当委員 荻原康一(日本福祉教育専門学校)

以下は、自由論題とテーマ別分科会の応募に共通の注意事項です。

(3) 応募は、原則として、学会ホームページからダウンロードした応募用紙に必要事項を記入し、添付ファイルとして、上記の E-mail アドレスにお送りいただくことになっております。なお、この方法による提出が難しい方は、春季大会企画委員長までご相談ください。

(4) 応募用紙の「報告要旨」及び「分科会設定の趣旨」の「400 字程度」との字数をお守りください。記入の不完全なもの、字数の著しく過剰なものや過少なものは、応募を不採択とさせていただきます。

(5) 自由論題・テーマ別分科会の「報告要旨」及び「分科会設定の趣旨」のいずれについても、**英文のアブストラクト**を提出していただくことになっておりますので、ご注意ください。**英文アブストラクト**には語数の基準は設けませんが、邦文の「報告要旨」や「分科会設定の趣旨」と同内容となるようにしてください。また、学会では英文の校閲は行いませんので、**英文については、原則としてネイティブ・スピーカーによる校閲(機械翻訳ソフト利用は不可)を受けた上で、誤りや不適切な表現がないものを提出してください。****英文アブストラクト**は、学会の英文ホームページで公開されます。

(6) 応募にあたっては、応募時点の所属機関とポジションをご記

入ください。大会プログラムには、原則として所属機関のみを表記しますが、院生の場合は所属機関とポジション(院生)を表記します。大会当日までに所属が変更となる方は、報告時のフルペーパーに新しい所属機関などを各自がお書きくださることで、変更にご対応ください。

(7) 応募の締め切りは、2015年1月19日(月)です。締め切りは厳守です。その後の応募は不採択とさせていただきます。

(8) 応募された方に対しては、遅くとも1月22日(木)までに応募用紙受領の連絡を行います。この時までに連絡のない場合はなんらかの事故の可能性があるので、問い合わせE-mail アドレス(あるいは下記の春季大会企画委員長宛)にお問い合わせください。

(9) 応募の採択と不採択の結果については、春季大会企画委員会および幹事会で審査の上、2月末までにご連絡する予定です。

(10) 第128回大会からフルペーパーは電子化されました。その目的は、フルペーパーの準備(大量印刷・送付)を行う報告者とフルペーパー管理(大量保管・移動、締切後や当日の対応、処分等)を行う開催校、双方の負担軽減です(この点に関する検討の経緯等については、2013年11月15日発行の本学会 Newsletter 2012-2014 年 No.6(通巻 77 号)「1. 幹事会からの重要なお知らせ」をご参照ください)。

第128回大会、第129回大会は制度変更の移行期であり、フルペーパーの電子化が必ずしも徹底されていみせんでしたが、2回の移行期を経て、第130回大会より、①フルペーパーは電子化すること、②当日は報告レジュメを配布すること、を徹底します。電子化のためのフルペーパーの提出締切は6月3日(水)となりますので、締切日を勘案したうえ応募してください。期日までに提出できず、フルペーパーの電子化ができなかった場合には、会場で十分な議論ができないだけでなく、提出期限を守られた報告者との間で不公平が生じます。フルペーパーが用意されることで報告が成立するという点をご理解いただき、採択された場合は期日までにフルペーパーを提出されるようお願いいたします。特にテーマ別分科会の申し込みにあたってコーディネーターの方は、必ずすべての報告者に、フルペーパーの提出の義務と締め切り日について説明し、了解を得ておいてください。なお、フルペーパーとは学会報告の内容を学会誌掲載の論文に準じて記述したも

のであり、既発表の論文・報告書等の転載は認められません。

(11) ご提出いただいたフルペーパーは、会員に事前にパスワードを送付し、そのパスワードを学会ホームページの大会フルペーパーのサイトに入力する方法で(つまり、インターネット上で的一般公開という形を避けて)、大会前後の限られた期間にのみ、閲覧と印刷が可能になるようにします。

自由論題およびテーマ別分科会で報告が採択された方は、5月27日(水)～6月3日(水)必着で、フルペーパーの電子ファイルを、担当委員(上述の担当委員とは別の委員となります)までお送りください。ファイル形式は、原則としてPDFファイルとして、Word ファイルも可とします。ファイルの送付方法や送付先などの詳細については、採択決定後にご連絡いたします。

(12) 自由論題およびテーマ別分科会で報告された会員は、大会での報告後、フルペーパーに改善を加えて、社会政策学会誌『社会政策』に投稿されることを、幹事会と学会誌編集委員会ではつよく奨励し期待しています。大会用フルペーパーは、その後の投稿を考慮してご執筆ください。なお、『社会政策』へ投稿する資格があるのは、会員のみです。

(13) 応募された後で、応募を取り下げること(報告のキャンセル)は、原則としてできませんので、ご注意下さい。

(14) 当日のプログラムは企画委員会が決定します。報告時間帯等については、複数の分科会にかかわっているなど登壇が重複するケース以外は、応募者からのご希望には応じられませんので、ご注意ください。

(15) 報告希望の前に、学会費の支払いはお済ませください。学会費に滞納がある場合は報告が許可されませんので、ご注意ください。

春季大会企画委員会委員長 所道彦
〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138
大阪市立大学大学院生活科学研究科
電話：06-6605-2896(研究室直通)
E-mail: tokoro@life.osaka-cu.ac.jp

2. 学会賞候補作の推薦(自薦・他薦)のお願い

新たな学会賞選考委員会が、10月11日に発足いたしました。学会賞選考委員会では、2015年1月から第21回学会賞の選考を開始したいと考えております。

つきましては、会員の皆様に候補作の推薦をお願いいたします。自薦・他薦を問いません。英文著書も選考対象です。

候補作の条件は、表彰規定第3条および第4条に基づき、本学会に3年以上継続して在籍している会員によって、2014年1月1日から12月末日までの間に公刊された著書です。

幹事会と学会賞選考委員会では、書籍データベース等を活用して、会員の皆様の日本語の著書のリストを作成して選考の際に利用していますが、技術的理由から、100%確実に会員の皆様の著書を拾い上げるのは難しいのが現状です。また、英文の著書については、原則として、推薦していただいたもののみを選考の対象としています。

つきましては、特に、会員のみならず著書を2014年中に刊行された場合は、ぜひとも、候補作の「自薦」の形で、お知らせいただくようお願いいたします。秋季大会の書評分科会

で取りあげる図書の選定にも活用させていただきます。

推薦のご連絡は、以下の要領で、電子メールか封書でお願いいたします。

また、候補作の現物の寄贈も歓迎いたします。

1. 締切 2015年1月31日必着
社会政策学会賞選考委員長 横田伸子 宛
メールアドレス: ynobuko@yamaguchi-u.ac.jp
住所: 〒753-0077 山口県山口市吉田 1677-1
山口大学経済学部
2. 電子メールの場合は、件名を「社会政策学会 学会賞推薦」としてください。

電子メールの場合、受領確認の返信をお送りします。1週間経っても返信がない場合は、念のため、再度のご連絡をお願いいたします。

3. 以下の事項を明記して下さい。①と②は必須、③は任意です。
①推薦者のお名前、ご所属、連絡先(自薦の場合は、電話番号、メールアドレスを必ず明記)

②候補作の著者名、書名、出版社、出版年

③推薦理由

*なお、他薦の場合、「本学会に3年以上継続して在籍している会員」かどうかを確認していただかなくて結構です。

ご協力のほど何卒よろしくお願いたします。

(学会賞選考委員長 横田伸子)

3. 第128回(2014年度春季)大会の報告

社会政策学会第128回(2014年度春季)大会は、5月31日(土)・6月1日(日)、中央大学多摩キャンパス(東京都八王子市)にて開催された。両日ともに最高気温30度以上の真夏日となり外出しにくい天候であったにもかかわらず、会員267名・非会員57名の参加を得た。

1. 開催校引き受けの経緯

昨春、青山学院大学にて開催された第126回大会の最終日に、田中洋子代表幹事(当時)から2014年度春季大会開催の打診を受けた。中央大学では過去に全国大会を5回開いており、さらに直近の2001年度大会からまだ日が浅かったものの、他大学との調整が難航しているとの説明を受け、1年後の春季大会開催をお引き受けすることになった。

2. 大会開催準備

大会の開催に向けて、2013年6月25日に大会実行委員会が組織され、鷲谷徹実行委員長の下で準備が進められることとなった。まず着手したのは学内手続きであり、学内における大会開催の承諾を得たり教室や備品を借用したりするための申請作業を速やかに行った。その後、10月にはゆうちょ銀行の口座を開設し、年末には第127回大会開催校であった大阪経済大学の伊藤大一会員(事務局長)から事務の引継ぎをして頂いた。わざわざ東京までいらしてご説明くださったお陰で、準備作業の具体的な流れや留意点を理解することができた。

本格的な準備作業に入ったのは、年が明けてからである。具体的には、使用教室・会議室の検討、長机・椅子・看板等の借用手続き、大会プログラムの作成、書籍販売を希望する出版社の対応、エコバッグの手配、懇親会の企画、弁当の手配、学生アルバイトの募集、文具をはじめとする物品の購入、掲示物等の印刷、名札・領収書の準備、盛花の手配など、膨大な作業を手分けして進めていった。

3. 大会初日(共通論題)

初日早朝の受付は、やや混雑して手続きがスムーズに進まなかった面も見受けられた。人員は手厚く配置したものの打合せが不十分であったことが原因で受付開始直後に若干の渋滞を引き起こしてしまったものと考えられ、今後の教訓としたい。

今大会では「社会改革思想と現代—社会政策の思想的基盤を問う—」を共通論題に掲げ、午前中に、田中拓道会員・若森みどり氏・玉井金五会員の各報告が行われた。午後には、Sanford M. Jacoby氏の特別講演に続き、深澤敦会員・武川正吾会員が各報告に関するコメントを述べ、最後に総括討論が行われた。開催校としては、一連の貴重な報告・活発な討論の模様を休憩室にもライブ中継で映し出すという、新たなサービスも試みた。今大会から始まったフルペーパーの電子配布との関連で急遽用意してもらった公衆無線LANの利用サービスとともに、大学側の協力により実現した新た

な取り組みであったことを記しておきたい。

4. 懇親会

懇親会は、学食棟「ヒルトップ」2階の生協食堂にて、総会終了後の午後6時30分から2時間の予定で執り行われた。地方大会のように郷土料理を用意するのは難しいので準備に苦慮したものの、担当の関口定一会員や生協スタッフの尽力により、ホテル並みの質を誇る多彩な料理・飲み物を供することができたのではないだろうか。特別講演者のJacoby氏も含めて多くの大会参加者が懇親会場にも足を運んでくださり、終了時間を延長するほどの盛会となった。

もともと、有料入場者の人数は期待したほどには伸びなかった。事前振込みにて懇親会の参加手続きをした会員が多かったため、160名分の料理・飲み物を用意したのであったが、実際の有料入場者数は137名にとどまったのである。近年は事前振込みに協力してくれる会員が増えていることを、考慮に入れるべきであった。

5. 大会2日目(テーマ別分科会、自由論題)

2日目は、8会場に分かれて17の多彩な分科会が設定された。各分科会の参加者数に関する事前の予測がほぼ的中していたこともあり、各会場の規模は適切であったように思う。運営面においても大きな問題は発生せず、各分科会での報告・質疑応答などは円滑に進められた。終了時刻を大幅に超過した分科会もあり、それぞれの会場で有意義な議論がなされたと推察される。

ただ、室温管理にはやや問題があった。季節外れの酷暑となったため急遽冷房の手配をしたものの、特に南面の教室においては、本学の空調設備では対応不能の温度に達した時間帯もあった。当該分科会の参加者には、ご容赦願いたい。

6. 総括

今回の大会では、従来と異なり、開催校側はフルペーパーやレジュメ等の管理から解放された。2001年春に本学で開催された第102回大会の際、学生アルバイトとして「紙」に振り回された経験をもつ立場からすると、開催校側の業務負担は格段に軽減された印象がある。その他、近年実施された大会開催予算の増額や歴代開催校が蓄積してきた有益な助言の引継ぎなどもあり、従来よりも大会の準備・運営はしやすくなったように思う。

十分な「おもてなし」ができたかどうかは判らないが、大過なく第128回大会を終えられ岡山大学へ襷をつなぐことができたのも、本学の学生スタッフや大会実行委員の尽力と、学会幹事・春季企画委員・歴代開催校担当者をはじめとする各会員のご協力のお陰と感謝している。

(第128回大会実行委員会 宮本悟)

4. 第 128 回(2014 年度春季)大会の会計報告

2014 年 7 月 4 日 第 128 回大会実行委員会

本会計

収入		支出	
大会開催費(学会本部)	1,500,000	プログラム・封筒印刷代金・送料	430,282
大学からの補助	90,000	アルバイト人件費	670,000
預金利息	94	スタッフ・ゲスト弁当代	90,120
		生花代	8,100
		休憩室用菓子、飲料代	74,257
		文具代	14,420
		通信費	8,202
		交通費	4,046
		振込み手数料(432 円×2 回;864 円×1 回)	1,728
		別会計収支差額補填	209,000
		収支差額	79,939
合 計	1,590,094	合 計	1,590,094

コメント:別会計への赤字補填やアルバイト人件費の高騰など予想外の支出はあったものの、大学側の協力により教室使用料やエコバッグ代が発生せず一定の節約もできたため、辛うじて黒字を計上できました。8 万円弱の黒字分は、引継ぎ業務等の学会活動に活用する予定です。

別会計

収入		支出	
広告収入	166,000	懇親会経費	1,074,000
弁当代	118,000	弁当代	118,000
懇親会参加費	699,000	収支差額	-209,000
合 計	983,000	合 計	983,000

コメント:懇親会収支は 37.5 万の大幅赤字となりましたが、ある程度の質・量を用意したので許容範囲と考えております。

参加人数詳細

大会参加		懇親会参加	
事前振込(会員)	200	事前振込	107
事前振込(非会員)	5	当日参加	30
当日参加(会員)	64		
当日参加(名誉会員)	3		
当日参加(非会員)	50		
ゲスト(ジャコビー先生・若森先生)	2		
合 計	324	合 計	137

学会本部への振り込み金額

大会参加費(事前振り込み)	487,500
大会参加費(当日支払い)	334,000
合 計	821,500

5. 「経済学分野の参照基準」について

(2014年2月までの経緯は、Newsletter 通巻78号、2014.2.28発行の既報を参照。)

「経済学分野の参照基準」案の是正を求める署名運動には、幹事会の決定で、田中洋子前代表幹事が呼びかけ人に加わっていました。署名運動は大きく進み、その結果、下記のように「経済学分野の参照基準」は日本学術会議で決定されました。署名運動事務局の宇仁宏幸氏による報告文章を下に貼り付けます。

8月8日開催の第9回大学教育の分野別質保証委員会にて、経済学分野の参照基準の最終報告 (<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-22-h140829.pdf>) が了承され、8月29日に日本学術会議の下記サイトで公表されました。

(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/division-16.html>)
新古典派ミクロ経済学・マクロ経済学を「国際標準」として位置づけて、日本の経済学教育の画一化をうたった当初の原

案の内容は、大きく修正され、最終的には経済学教育の自主性・多様性を認めるものになったと、私見では、考えます。

これは、みなさまの署名運動へのご協力の成果であると思います。みなさまの署名運動へのご協力に感謝いたします。また、今後、この参照基準の運用が始まりますが、誤った運用がなされないように注意する必要があると思います。

署名運動事務局 宇仁宏幸

既報にある3月12日の「経済学分野の参照基準」を考えるシンポジウムは、滞りなく開催されました。日本学術会議の上記決定を受けて、このシンポジウムの発表者を中心とした論文集の公刊が計画されています。書名は『経済学と経済教育の未来』に決まり、2015年早々に桜井書店から刊行予定です。3月12日の発表者の1人である遠藤公嗣も、執筆を依頼されています。

(経済学関係連携・協力担当幹事 遠藤公嗣)

6. 第129回(2014年度秋季)大会での報告の取り止めについて

第129回(2014年秋季)大会2日目10月12日(日)に行われましたテーマ別分科会・第6「生活困窮者支援事業の現状と課題」(社会的排除/包摂部会)の藤井敦史(立教大学)報告に

つきましては、ご本人の緊急の事情により当日の報告が取り止めになりました。

7. 2014-2016 年 期 幹 事 会 報 告

第2回幹事会・議事録

日 時: 2014年10月10日(金)14:00~17:20
場 所: 岡山大学文法経2号館5階経済学部会議室
出 席: 居神、遠藤、大沢、熊沢、鈴木、所、平岡、藤原、森
欠 席: 阿部(彩)、阿部(誠)、岩田、禹、埋橋、垣田、首藤、
武川、田中、沈、平木、松本、宮本、山田(篤)、
山田(和)、横田

1. 秋季大会企画委員会

居神委員長より、今後の秋季大会の大まかなスケジュールについて報告された。また、今回の秋季大会のテーマ別分科会第5(ジェンダー部会)のセッションが「国際交流委員会との共催」であることが大会プログラムおよび学会ホームページに記載されていなかったことから、大会終了後に記載を追加することが承認された。あわせて、今後、共催企画の場合は幹事会で企画委員会にその旨を正式に伝えるように定例化することとされた。

2. 春季大会企画委員会

所委員長より、委員の役割分担について報告された。また、2015年春季大会の共通論題の企画と時間配分、報告の募集スケジュール、若手研究者のための企画に関して意見交換を行った。

3. 春季大会事務局

平岡代表幹事より、2015年春季大会が2015年6月27・28日にお茶の水女子大学(27日・自由論題と分科会)と専修大学(28日・共通論題)の共催で開催予定であることが報告された。

4. 広報委員会

藤原委員長より、メーリングリストの整理と管理に関する現状説明と提案(地方部会と専門部会の所属確認・所属希望を会員名簿作成と同時に実施)があり、次回の名簿作成時に実施を検討することとなった。

幹事会メーリングリストについては、来年度以降、幹事会メンバーが作成・管理することとし、SSSPメーリングリストについては現行を維持することとした。部会活動の活性化のための情報支援として学会ホームページに部会のページを設けるとともに、部会活動情報を会員宛一斉メールで配信できる条件を検討することとした。

学会ロゴの作成について議論され、当面は海外との連絡に利用するためのレターヘッドの作成を、国際交流委員会とも相談しながら検討することとなった。

5. 国際交流委員会

鈴木副委員長より、2015年度春季大会英語セッションの進め方について提案があり、ESPANETからの応募者と、本学会会員の応募者などでセッションを構成することとされた。

また、ESPANET、LERA、韓国社会政策学会、中国社会政策専門委員会との交流の状況について報告された。

6. 学会賞選考委員会

委員が選出された。

・2015年度春季大会まで

清水耕一(岡山大学)

宮坂順子(昭和女子大学)

横田伸子(山口大学)

- ・2016年度春季大会まで
秋元美世(東洋大学)
小野塚知二(東京大学)
駒村康平(慶應義塾大学)
首藤若菜(立教大学)

また、候補作品のリストアップの方法の改善について議論された。

7. 英文学会名称の略称の使用について

平岡代表幹事より、新たな社会政策学会の英文略称がJASPSとなったことに関して、類似するJASBSという略称をもつ学会(日本中小企業学会)の存在が会員から指摘されたことを受け、略称の使用に際しては混乱を招かないよう細心の注意を払っていくことが報告された。

8. 旅費規程の改正について

平岡代表幹事より、旅費の全額支給に向けた学会旅費規程の改定案が提出され、次回の幹事会での若干の文言の修正を経た上で来年度の春季大会時の総会に諮ることとなった。

9. 入会申込者について

6名の入会希望者について審議を行い、入会を了承した。

第3回幹事会・議事録

日時:2014年10月11日(土)12:30~13:30

場所:岡山大学文法経2号館5階経済学部会議室

出席:阿部(彩)、阿部(誠)、遠藤、大沢、武川、平岡、森、山田(和)、横田

欠席:居神、岩田、禹、埋橋、垣田、熊沢、首藤、鈴木、田中、沈、所、平木、藤原、松本、宮本、山田(篤)

1. 学会誌編集委員会

阿部彩委員長より、『社会政策』の号別進捗状況が報告された。また、査読専門委員制度のあり方、投稿本数の低迷傾向、研究レビューのあり方、編集委員の旅費負担に関する意見交換がなされた。

2. 社会政策関連学会協議会

阿部誠担当幹事より、今後の社会政策関連学会協議会主催シンポジウムの開催予定について報告された。

第4回幹事会・議事録

日時:2014年10月12日(日)11:30~12:20

場所:岡山大学文法経2号館5階経済学部会議室

出席:阿部(誠)、埋橋、遠藤、所、平岡、森

欠席:阿部(彩)、居神、岩田、禹、大沢、垣田、熊沢、首藤、鈴木、武川、田中、沈、平木、藤原、松本、宮本、山田(篤)、山田(和)、横田

1. 第133回(2016年度秋季)大会開催校について

埋橋幹事より、第133回(2016年度秋季)大会の開催校が同志社大学に内定したことについての挨拶があった。

2. 大会に際してのフルペーパーのホームページ掲載について

今大会において、事前のフルペーパーのホームページ掲載数が少なすぎるのではないかと会員から指摘されたことを受け、事前のフルペーパー提出のあり方について意見交換した。

8. 承認された新入会員

氏名	所属名称	専門分野
10月10日承認分		
小野 太一	国立社会保障・人口問題研究所	社会保障・社会福祉
河本 淳孝	明治安田ライフプランセンター株式会社	社会保障・社会福祉
後藤 玲子	茨城大学人文学部	労使関係・労働経済
佐藤 桃子	大阪大学大学院人間科学研究科	社会保障・社会福祉
田口 和雄	高千穂大学経営学部	人的資源管理論
深見 佳代	京都大学大学院経済学研究科	社会保障・社会福祉

社会政策学会事務センターより

学会事務センターでは、現在、「会員名簿」を作成中です。発行は12月中旬を予定しております。名簿掲載のための会員登録内容の変更は、9月末日をもって締め切らせていただきました。名簿は今年度(2014年度)までの学会費を納めていただいた会員の皆様にお送りいたしますので未納の方は至急お振込みいただきますようお願い申し上げます。